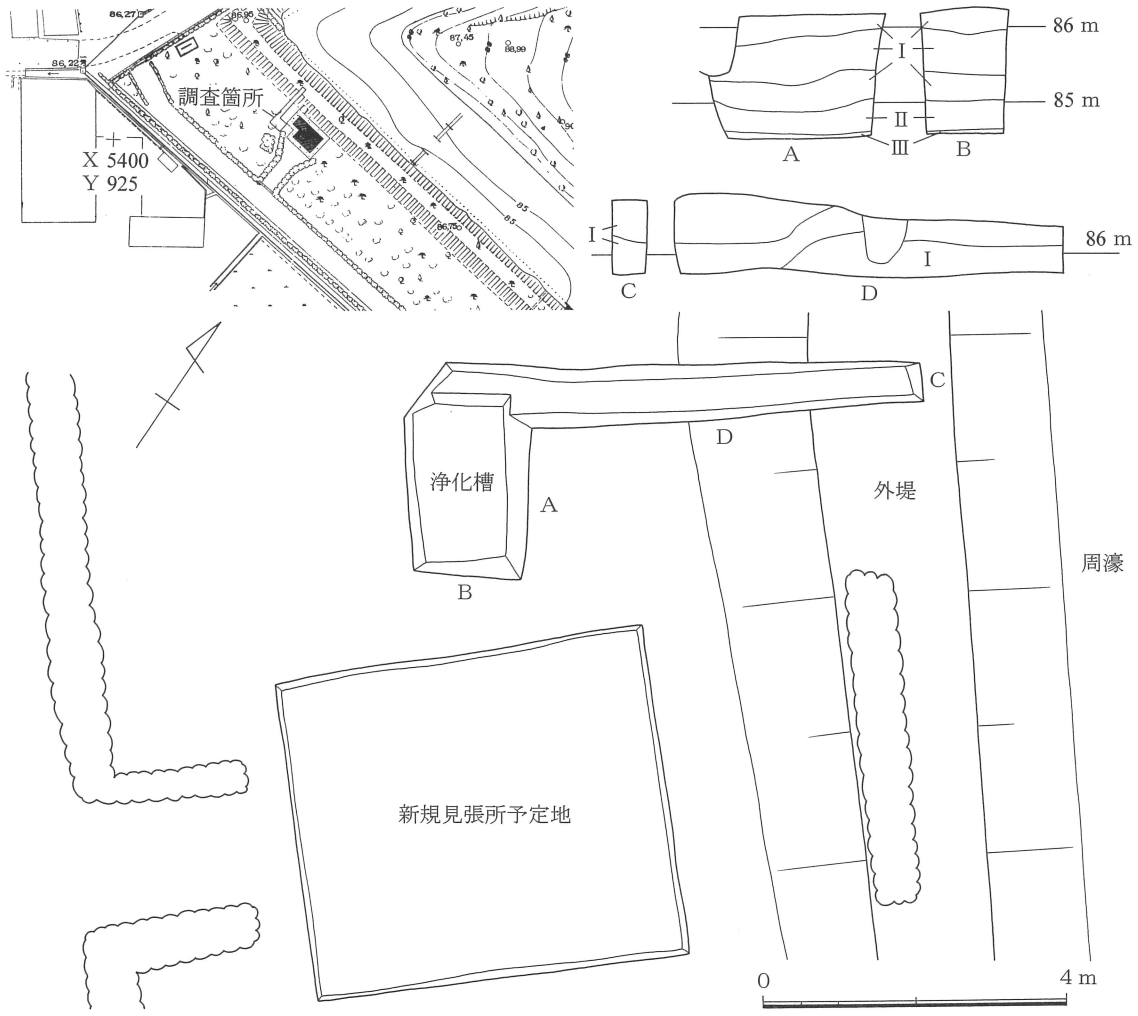
## 飯豊天皇　埴口丘陵見張所改築箇所の立会調査

飯豊天皇の埴口丘陵は、葛城山から東に向かって下る緩やかな傾斜地上にある全長約85mの前方後円墳で、周囲は、現在水田や住宅地が広がっている。この度、経年のため老朽化した見張所の改築工事が実施されることとなり、平成11年９月27～30日に本部職員が、10月４・28日には監区職員がそれぞれ建物基礎、関連設備の設置に関わる掘削に立ち会った。

掘削はもっとも深い浄化槽埋設箇所で(第35図)、地表下1.7mを測り、その他の箇所については0.3m前後である。浄化槽埋設箇所で土層を見ると、Ⅰは現在の見張所も含めた、陵前域を整備するための盛土と考えられる。３層に分けられる。Ⅱは水田耕土と考えられる砂質土で、Ⅲは水田床土と考えられる粘質土である。浄化槽埋設箇所以外の掘削は、ここより浅く、すべて陵前整備の盛土の中で終了している。

遺構・遺物は検出されなかった。上記の結果を踏まえ、工事は予定通り実施した。(清喜裕二)




第35図　埴口丘陵　調査箇所位置図(1/800)および平面図・断面図(1/100)